

〔重修本草綱目啓蒙十七〕麻 稻

增略○中紀州熊野本宮山中水澤中ニ、自然生ノ者アリ、年々繁茂ス、里俗空海ノ栽ル所ト云フ、然ル

ニ稻ハ天下ニ普シト雖ドモ、其始ハ皆魯生ナリ、又仙臺城州、伏見稻荷山ニモアリト云、

〔倭訓栞中編二〕いなから。古事記にみゆ、稻莖の義成べし、

〔古事記中〕於坐倭后等及御子等諸下到而作御陵、即匍匐廻其地之那豆岐田自那下三而哭爲

歌曰、那豆岐能多能伊那賀良邇、伊那賀良爾、波比母登富呂布、登許呂豆良、

〔古事記傳二十九〕多能伊那賀良邇は、田之稻幹になり、

〔倭訓栞中編二〕いな。き。稻を刈たる跡のかぶ也

〔後拾遺和歌集十一〕題しらす

鳴のふすかり田にたてる稻ぐきのいなとは人のいはずもあらなん

〔新葉和歌集冬六〕題しらす

あさな／＼霜をく山のをかへなる、菊田の面にかゝるいなぐき

〔新撰字鏡禾〕禾古八反、稟也、又作菅、古。〔同〕草稿莖、同和良、莖可万

〔箋注倭名類聚抄稻穀具九〕按説文、稟、稗也、稗禾莖也、禾嘉穀也、玄應音義引倉頡篇云、稟禾稗也、則知

禾本謂稟莖、以爲稻莖者、轉注廣雅、稻穰謂之稗、是也、又昭二十七年左傳、楚鄒將師、令攻郤氏、且蕘

之、或取一編菅焉、或取一秉秆焉、王念孫曰、楚於職方屬荊州、其穀宜稻、所謂秆者、稻穰也、秆即稗字、

王念孫又曰、今江淮間、以稻稗爲席蓆、謂稟薦、是稻稗亦稱稟也、

〔類聚名義抄七〕稗古旱反、秆或並正、稟古活反、禾稟正、〔同七〕稟ヲラ

〔伊呂波字類抄和雜物〕莖亦作稟、稟

〔下學集草下木〕莖

藤原顯季朝臣

前中納言爲忠